

# 平成30年度入学生用カリキュラムマップ

【中高教職課程】

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目								
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目								
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
18UTEA1101	教 職 入 門	1	1. 中高教諭または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。 2. 特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。 3. 教育への理解と教職への関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲を高揚させる。	①教職全体について総合的に理解し、4年間の大学生活および教職課程履修について、学ぶ意欲と計画性を高める。②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織として機能していることを理解する。	◎							◎	○
18UTEA1201	教 育 原 理	1	中高教諭または栄養教諭に必要な教育の基礎的理論について、以下の諸点から講じる。 (1) 人間学・教育学 (2) 教育の意義・目的・理念・歴史・未来 (3) 人間形成と家庭・地域・社会との関係 (4) 教育実践の理論と実際	①教育的営みの意義・目的等を理解している。②子どもの成長発達に関わる教育者の役割について、歴史的経緯を踏まえて理解している。③人間形成と家庭・地域・社会の関係性を理解している。④教育実践の理論と実際の関連性を理解している。⑤現代教育の課題を把握し、解決策を探究することができる。	◎								○
18UTEA2202	教 育 史	2	1. 西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。 2. 教育思想の現代的意義を探究する力を育成する。 3. 現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。	①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。	◎								○
18UTEA1203	教 育 心 理 学	1	1. 中高教諭または栄養教諭として必要な基礎的な知識・技能について、心理学の視点から学ぶ。 2. 教育心理学の基礎知識や技能を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のプロセスへの理解を深める。	①教育心理学の基礎について正しい知識を身につけ、他者に説明できる程度に理解を深める。②学習者である幼児・児童・生徒の発達と学習について、教育心理学の基礎知識を活用して考えることができる。		◎							○
18UTEA3204	発 達 心 理 学	3	1. 人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。 2. 特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。	①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。		◎							○
18UTEA1205	障害児の発達と教育	1	1. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められることの現状と背景について講じる。 2. 各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解する。	①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。④障害児を育てる保護者の心情を理解する。⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。		◎					○	○	

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目								
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目								
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
18UTEA2206	教育行政学	2	1. 中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。 2. 現代の公教育制度を運営・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。	①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的知識を得る。	◎						○		○
18UTEA3207	教育社会学	3	1. 教育社会学の観点から、近代「教育」や「学校」の歴史的な位置づけを確認する。 2. 今日における問題や課題を臨床教育学の視点から捉え、問題や課題の背後に潜む教育病理を究明する。	①教育現象を歴史的側面や社会的側面を結び付けて捉える。②現在の学校および教育に関する社会的期待や批判等について客観的に考える。③教師に対する社会的期待や心構えを理解する。	◎								○
18UTEA1301	教育課程総論	1	1. 新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。 2. 現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。	①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。②教育課程論、教育内容・方法論等に関する具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に創造的に問い直すことのできる能力と姿勢を身につける。	○					◎	○		
18UTEA2302	国語科指導法Ⅰ	2	中高国語科の目的・内容・方法・評価について、基本的な知識および技能について講じる。	①中高国語科教育の理論的実践的基礎を主体的に学ぶ。②国語の授業を創造する力を身につける。						◎			○
18UTEA2303	国語科指導法Ⅱ	2	1. 中高教科国語を教授する際に必要となる教材分析の理論と方法について、講じる。 2. 国語科授業空間として構築する力を探求する。	①中高国語科教育の実践について、教材分析を通して考える。②国語の授業を構想する能力を身につける。						◎			○
18UTEA3304	国語科指導法Ⅲ	3	1. 中高教科国語を教授する際の授業組織化の方法について、講じる。 2. 国語科の授業を空間として構築する力を修得する。	①中高国語科教育を、授業空間の組織化の技法を通して考える。②国語の授業での授業者としての立ち居振る舞いを身につける。						◎			○
18UTEA3305	国語科指導法Ⅳ	3	1. 中高国語科教育の指導者として、中高教育における国語教育の歴史を学び、国語科教育の現在を理解する。 2. 中高国語科教育の実践的課題を引き受け、国語科授業を構想する教師としての実践力を探求する。	①中高国語科教育の歴史を学ぶ。②現代文・古文・漢文それぞれに即しつつ、これらの教育内容の特質や変遷過程を理解する。③わが国の国語教育の今日的課題と未来を考える。						◎			○
18UTEA2306	書道科指導法Ⅰ	2	高校教育の中での芸術書道の意義・目的・内容・方法・評価方法と具体的な授業形態のあり方について、原理的に探求する。	高校書道の意義・目的・内容・方法・評価方法等を知る。						◎			○
18UTEA2307	書道科指導法Ⅱ	2	高校書道科を教授する際に必要な教材研究と指導案作成を通し、授業のあり方を実践的に探求する。	高校書道の授業に要する教材作りおよび指導案作成方法を知る。						◎			○

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目								
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目								
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
18UTEA2308	英語科指導法Ⅰ	2	1. 英語科指導法の基礎的な知識を修得させる。 2. 中学校の英語授業を想定して演習し教壇に立って教えることに慣れさせる。 3. 英語教師に必要な英語力を高める。	①学校教育で行われる英語教育の背景的な知識や英語習得の基礎的な理論を知る。②新しい単語の導入、基本文型の練習方法などの実際の指導方法を身につける。③中学校の英語の指導案が書けるようになる。						◎			○
18UTEA2309	英語科指導法Ⅱ	2	1. 英語科指導法の基礎的な知識を身につけさせる。 2. 高校で英語の授業をする場合を想定して演習を行い、教壇に立って教えることに慣れさせる。 3. 英語教師に必要な英語力を高める。	①学校教育で行われる英語教育の背景的な知識や英語習得の基礎的な理論を知る。②リーディング、ライティング、オーラル・コミュニケーションの指導方法を身につける。③高校の英語の指導案が書けるようになる。						◎			○
18UTEA3310	英語科指導法Ⅲ	3	1. 英語の指導法に磨きをかける。 2. 英語教師にとって必要な英語コミュニケーション能力を高める。	①グローバル化に対応した新たな英語教育が展開できる。②中高英語科教職実践力を構成する教科指導力・授業実践力を修得する。						◎			○
18UTEA3311	英語科指導法Ⅳ	3	1. 英語科指導法ⅠⅡⅢでの学修を踏まえて、英語科指導法のまとめを行う。 2. 特に、学校現場での英語の授業場面を想定して、模擬授業を実施し、その実践力を確認する。 3. 模擬授業を踏まえ、参加者相互で授業を振り返り、気づきや改善点等などにつき、意見を交換し、課題を整理する。	①英語授業を実践する上で必要となる知識を学び、英語教育力を修得する。②学習指導要領を理解し、教材研究、指導案の作成、模擬授業を組み入れ、実践的な指導ができる能力を身につける。						◎			○
18UTEA2312	家庭科指導法Ⅰ	2	1. 中学校家庭科教育の歴史から、その役割の変遷を理解する。 2. 中学校家庭科教育の今後の課題と方向性を明らかにする。 3. 上記1・2を踏まえ、各自の家庭科教科観を構築する。 4. 中学校家庭科の指導計画の立案等の基礎的な実践力を養う。	①中学校家庭科教育の歴史を理解する。②中学校家庭科の目標と内容を理解する。③中学校家庭科の年間指導計画を作成できる。④中学校家庭科の学習指導案を作成できる。⑤中学校家庭科のマルチメディアを用いた模擬授業ができる。						◎			○
18UTEA2313	家庭科指導法Ⅱ	2	1. 高校家庭科教育の歴史から、その役割の変遷を理解する。 2. 高校家庭科の今後の果たすべき課題と方向性を明らかにする。 3. 家庭科指導法Ⅰで学習したことを踏まえ、家庭科教育の本質を探り、各自の教科観を確立する。	①高校家庭科教育の歴史を理解する。②高校家庭科の目標と内容を理解する。③高校家庭科の年間指導計画を作成できる。④高校家庭科の学習指導案を作成できる。⑤高校家庭科のマルチメディアを用いた模擬授業ができる。						◎			○
18UTEA3314	家庭科指導法Ⅲ	3	1. 家庭科指導法ⅠⅡで学習した内容を基礎とし、中高家庭科の指導の実践力の向上を図る。 2. 特に指導資料の選択、指導のための技術、学習成果の測定の開発のスキルを身につける。	①家庭科の現状を把握し方向性もてる。②参加型授業を理解し模擬授業ができる。③学習成果と評価の方法を理解する。						◎			○
18UTEA3315	家庭科指導法Ⅳ	3	1. 家庭科指導法ⅠⅡⅢで学修した内容を基礎とし、中高家庭科の指導の実践力の更なる向上を図る。 2. 各自の教育哲学から独自の家庭科教育理念の構築を図る。	①実験・実習を用いた模擬授業ができる。②家庭科の教育理念を構築し、課題を解決する能力を身につける。						◎			○

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目									
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目									
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII		
18UTEA2316	情報科指導法Ⅰ	2	1. 当該教科における教育目標と育成したい資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について理解を深める。 2. 背景となる「教科に関する専門事項」について、指導法という観点から理解する。	①学習指導要領における当該教科の目標および主な内容ならびに全体構造を理解している。②当該教科の個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。③当該教科の学習評価の考え方を理解している。④当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。⑤当該教科の授業を構想する能力を身につける。						◎			○	
18UTEA2317	情報科指導法Ⅱ	2	1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、当該教科の授業を構築する力を身につける。 2. 当該教科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。	①生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。②当該教科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。						◎			○	
18UTEA3318	情報科指導法Ⅲ	2	1. 当該教科の授業を実施するための教科指導力・授業実践力を修得する。 2. 授業を行うに当たって必要な「教師としての振る舞い」を学ぶ。	①模擬授業において授業を実施できる。②模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。③発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置づけを考察することができる。④授業での授業者としての立ち居振る舞いとコミュニケーション能力を身につける。						◎				○
18UTEA3319	情報科指導法Ⅳ	2	1. これまでの歴史と現在の課題を学び、当該教科の教員としての資質を身につける。 2. 当該教科における教育の実践的課題を引き受け、授業を構想する教師としての実践力を探求する。	①当該教科における教育の歴史を学び、自身の指導に取り入れることができる。②当該教科における教育の現代的課題を知り、対応する力を身につける。③当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。④当該教科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。						◎				○
18UTEA2320	音楽科指導法Ⅰ	2	1. 中高音楽教育の基本的な概念について、講じる。 2. 1を踏まえ、教育実習や学校における授業を想定して、具体的な年間指導計画・学習指導案を作成する。 3. 音楽教師として今後探求すべき具体的な実践課題を明らかにする。	中高音楽教育の現場をイメージした上で、学習指導要領に基づいた音楽科の年間指導計画・学習指導案を作成できる。						◎				○
18UTEA2321	音楽科指導法Ⅱ	2	1. 中高音楽科の教材研究について、その一連の流れを説明し、実際に経験の機会を提供する。 2. 中高音楽科の模擬授業を行い、教材研究の意義を知り、具体的な方法を修得する。	中高音楽教育の現場をイメージした上で、音楽科の教材研究の方法を理解し、教材を分析できるようになる。						◎				○
18UTEA3322	音楽科指導法Ⅲ	3	1. 多文化教育のテーマを元に教材研究・発表を行う。 2. 音楽的知識を表現と関連させながら、わかりやすく伝える方法について、探求する。	中高音楽教育の現場をイメージした上で、多文化音楽の指導法を多角的に理解し、教材分析・指導案作成・実践を行うことができる。						◎				○
18UTEA3323	音楽科指導法Ⅳ	3	学校現場で生起する音楽教育に係る諸課題を想定し、音楽教育の先行研究に基づいた分析と考察を行い、音楽教育における理論と実践の結合に生かす。	中高音楽教育の現場をイメージした上で、先行研究・実践事例から実践的課題を見出し、その課題解決のあり方を考え、実践する。						◎				○
18UTEA3324	理科指導法Ⅰ	3	1. 中高理科教育の目的・内容・方法・評価について、その原理を学ぶ。 2. 中高理科の指導計画が作成できるまでの基礎的な能力を培う。	①中高理科教育の現場をイメージした上で、理科の目的・内容・方法等につき、原理的に理解する。②中高理科の指導計画作成までの基礎的知識・技能を修得する。						◎				○

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目									
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目									
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII		
18UTEA3325	理科指導法Ⅱ	3	1. 中高理科教育の目的、内容、方法・評価について、その原理を学ぶ。 2. 中高理科の指導計画が作成できるまでの実践的な能力を培う。	①中高理科教育の現場をイメージした上で、理科の目的・内容・方法等につき、原理的に理解する。②中高理科の指導計画作成までの実践的知識・技能を修得する。						◎			○	
18UTEA4326	理科指導法Ⅲ	4	理科指導法ⅠⅡに基づき、具体的に指導計画を作成し模擬授業を行う。	①中高理科教育の現場をイメージした上で、既習の知見を活用し、中高理科の指導計画を作成する。②上の①を踏まえて、模擬授業を実施する。③模擬授業を振り返り、気づきや改善点などについて語り合い、具体的な課題を整理する。						◎			○	
18UTEA4327	理科指導法Ⅳ	4	1. 中高理科の授業内容について、理解度を確認する。 2. 中高理科の授業構築の方法について、実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。	中高理科教育の現場をイメージした上で、先行研究・実践事例から実践的課題を見出し、その課題解決のあり方を考え、実践する。						◎			○	
18UTEA2328	道徳教育指導論	2	1. 学校教育活動全体の中で、意図的・無意識的に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を形成していることを知る。 2. その過程で、自らを律しつつ、人間として円満に成長する「あゆみ」について探究し、今後の道徳教育のあり方と実践方法・教材等について探求する。	①道徳教育に関する基本的な概念を理解する。②「生きる力」を育むことにより、中学生一人ひとりの豊かな心を育て、人生・社会を切り拓く実践的な力の育成を図る。③実際に中学校において道徳を指導する場面を想定し、指導案の作成や教材研究を試みながら「特別の教科 道徳」を担当できる知識と技術を身につける。				○		◎		○	○	
18UTEA2329	教育方法の理論と実践	2	1. 中高教育を中心に、教育方法学の概要を学ぶ。 2. 特に、教授＝学習に焦点を当て理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識について講じる。 3. 教育方法学の領域は、(1) 授業の技術的原理に関する問題だけではなく、(2) 教室における子どもの学習の経験の問題、(3) カリキュラム構成と評価に関する問題、(4) 教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、(5) 教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを知る。	①教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の状況を概観し、教育方法の問題や課題を知る。②その上で、より豊かな教育観、授業観を探求する。③授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連づけて説明することができる。	◎					○	○		○	
18UTEA1401	生徒指導・進路指導	1	1. 学校現場において、いじめ・不登校・暴力行為・学級崩壊など様々な問題が生起している実態や背景・原因等を知る。 2. 生徒指導の意義を正しく理解するとともに、生徒指導上の課題にいかに対応し得るかを主体的かつ具体的に考察する。 3. 進路指導上の課題と対応について考察する。	①生徒指導の意義と機能について理解する。②教育課程と生徒指導の関連を理解する。③生徒指導体制の重要性を理解する。④青年期の心理と発達の特徴を理解する。⑤生徒理解の方法を理解する。⑥進路指導の意義と方法を理解する。					◎			○		
18UTEA4402	教育相談の理論と方法	4	1. 教師に求められる同僚や保護者と協働できるコミュニケーション能力、自己表現力を、臨床心理学やカウンセリング事例等に基づき講じる。 2. 「聴く」力を養い、問題行動のもつ意味、予防方法、問題が生じた時、教師や保護者ができることについて学ぶ。	①学校教育における教育相談の重要性について理解を深め、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる。②教育相談の知識と基礎的能力を修得する。③自分の考え方や価値観を自覚し、コミュニケーション能力を身につける。		◎	○	○						

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目							
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目							
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
18UTEA4501	教育実習指導（中高）	4	1. 中学校または高校教育の意義や実際の教育活動について、実習校の実態を踏まえて総合的に学修する。 2. 教育実習の意義を理解する事前指導として、教職課程におけるこれまでの学びを踏まえ、中学校または高校教諭としての必要な知識・技能・態度等を具体的に修得する。 3. 事後指導として、実習体験を振り返り自らの実践的課題を把握し中学校または高校教諭への志を確認する。	①教育実習の意義を理解する。②教育実習に関する基本的な知識・技能・態度について学修する。③学習指導案作成の仕方を修得する。④学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。⑤事前指導により教育実習に臨む意欲を高め、事後指導により教諭への志を確立する。	○	○	○	○	○	○	◎	◎
18UTEA4502	教育実習Ⅰ（中高）	4	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。	中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確にもつ。②教師・社会人としての対人関係能力を高める。③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。④専門教科指導に要する基礎的な知識・技能を有し、個別の授業を構想し、指導案を作成して、授業を展開できる。⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○	○	○	○	○	◎	◎
18UTEA4503	教育実習Ⅱ（中高）	4	これまでの教職課程での学び全体を通して得た知識・技能と専門教育課程科目で得た知識・技能とを統合して、教育実習で積極的に活用する方法と態度を学ぶ。	中高教諭としての使命感や責任感、社会的対人関係力、生徒理解と学級経営力、教科指導力および授業力を総合的に高める。①教師としての志＝目的意識および倫理観（感）を明確にもつ。②教師・社会人としての対人関係能力を高める。③学級経営・生徒指導を実践する際の理念・構想・実践プランを具体的に描くことができる。④専門教科指導に要する基礎的な知識・技能を有し、個別の授業を構想し指導案を作成して、授業を展開できる。⑤専門教科以外の教育活動領域について、基礎的な知識・技能を有している。	○	○	○	○	○	○	◎	◎
18UTEA4601	教職実践演習（中高）	4	1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。 2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。 3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。	①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業（模擬授業を含む）について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。	○	○	○	○	○	○	◎	◎
18UTEB4001	教 職 概 論	4	1. 学校教育と教職の意義について理解を深める。 2. 現在の教師に求められている教職実践力のうち、特に授業力や学級経営、生徒指導等の実践力を修得する。	①学習指導、学級経営や、今日的な教育課題の解決方法等について、専門的な知識および解決のための技能を修得する。②学生は主体的・協同的に授業に取り組み、中高生に身につけさせたい学びの姿勢を自ら協同体験し、修得する。	○				○	○	◎	

科目番号	科目名 (「教科指導法」は、各自が取得する教科に対応する科目を履修する)	学年	科目目的	到達目標	中高教職課程修了に必要な資質能力大項目								
					凡例：◎特に重要な科目、○重要な科目								
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
18UTEb2002	人権教育の理論と方法	2	1. 国際化、情報化、科学技術の進展など、急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちとともに新しい人権文化を育むことが教員に課せられていることを認識する。 2. そこで現代に適合した人権教育のあり方を探求し、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成について考察を深める。	①人権に関する諸問題が生じる要因について科学的に認識するとともに、その解決に向けての教育実践を構想できる教職の専門性を身につける。②また学習過程を通じて、自ら課題を見出し、人権教育の教育課程を自主編成できる能力を身につける。			○	○				◎	
18UTEb3003	総合学習の理論と実践	3	1. 「総合的な学習の時間」の創設の趣旨・目標や内容等について理解を深める。 2. 学習指導要領の改革動向を把握し、その基本理念が「生きる力」の育成にあることを学ぶ。 3. 「求める能力」として、生徒の主体性・思考力・判断力・表現力の育成またコミュニケーション力が示されていることを理解する。 4. 「総合的な学習の時間」の学習計画を作成し、具体的な学習活動の実践方法を探求する。	①「総合的な学習の時間」の創設趣旨・目標・指導内容等に係る専門的知識および指導技能を修得する。②授業に主体的、協同的に取り組むことで、「総合的な学習の時間」自体を通して中高生に身につけさせたい学びの姿勢を自ら協同体験し、修得する。				○		◎		○	
18UTEb1004	特別支援学校参加実習	1	1. 中高教職課程履修者を対象に、多様な特別支援教育の実際に触れ、教職につき体験的に学ぶ機会とする。 2. 特別支援学校で、障害のある幼児・児童・生徒が、担当教員の指導・助言・援助を得て自立への意欲・態度を育てている姿から多くのことを学ぶ。	①特別支援学校の教育活動を実体験する。②特別支援教育の実践や特別な配慮を要する子どもへの関わり方などについて理解を深める。		◎	○					○	